

食料自給率の動向と見通し

- 1960～1980年代にかけての消費拡大(人口増加)と消費構造の変化によって、わが国では食料の海外依存が定着(国内消費に比して生産のための国内農地が不足)
- 2000年代になって国内消費が低下し始めたが、それ以前からの国内生産の減少が続いて、自給率の低下に歯止めがかからなかった
- 国内生産は、1990年半ば以降の消費の低下に同調して減少し続けてしまった
- この数年、食料の海外依存がこれまで通り続けることができるかどうかについて不安材料が増えることとなり、その対策として国内供給力の強化が課題
- 今後も労働力減少が予想される中、生産力を向上させるにはスマート農業の導入が鍵となるが、これまで投資が低迷してきた状況は懸念材料
- 2010年代になって、低迷していた食料消費の回復の兆し
- 新しい消費行動を本格的なものとすることで、食料システムにおいて消費と生産の好循環構造を確立して、それが食料安全保障をめぐる状況の改善へとつなげることに期待



FCPの支援の可能性

わが国の食料安全保障を強化するために

- わが国の食料安全保障をめぐる状況の再検討
 - － 海外の情勢
 - － 国内の実態
- 国内生産力強化
 - － 生産性の向上
 - － 収益率の向上：価値を高める
- 物流問題の解決
 - － 産地集荷
 - － 産地から消費地への輸送
 - － 都市部での配送
- 環境対応
 - － 気候変動対策・生態系保全
 - － 環境意識の醸成：生産者・消費者の協働
- 不測時の食料安全保障の備え
 - － 輸入対応
 - － 流通在庫管理
 - － 生産支援